

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 平成17年度養野市くずは青少年野外センター再整備事業附属棟建築工事
建築場所 神奈川県養野市菩提地内

(2) 工事種別 ☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築

(3) 構造種別 木造
☒木造 (W) 一般鉄骨造 ☐補強コンクリートブロック造 (CB) ☐鉄骨造 (S)
☐鉄筋コンクリート造 (RC) ☐壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
☐鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐

(4) 階数
地下 - 階 地上 1 階 塔屋 - 階

(5) 主要用途

(6) 屋上付属物
☐高架水槽 kN ☐キュービクル kN ☐広告塔 ☐煙突
☐エレベーター 人乗り (ロープ式 油圧式) ☐リフト kN ☐ホイスト kN
☐倉庫積載能力 N/m² ☐受水槽 kN

(7) 特別な荷重
☐エレベーター 人乗り (ロープ式 油圧式) ☐リフト kN ☐ホイスト kN
☐倉庫積載能力 N/m² ☐受水槽 kN

(8) 付帯工事
☐門扉 ☐障壁 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(9) 増築計画 ☐有 () ☐無

(10) 構造計算ルート X方向ルート 1- () Y方向ルート 1- ()

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 f _c (N/mm ²)	品質管理強度 f _q (N/mm ²)	スランプ mm	備考
基礎コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	15	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	18	
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	24	18	
床・壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	21	24	18	比重
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				比重
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				比重

注釈

(2) コンクリートブロック (CB)
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚 ☐100 ☐120 ☐150 ☐190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D10-D16	ナブ、スラッグ、土間
	<input type="checkbox"/> SD295B		
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19-D25	接合部、柱、基礎梁
	<input type="checkbox"/>		
高強度せん断補強筋			<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸鋼	<input type="checkbox"/> BR235		()
溶接電極 (JIS G 3131)	<input type="checkbox"/>		

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400A、B、C	小梁	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B、C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SS400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(5) ボルト

☒高力ボルト
☐普通: F10T ☒特殊: S10T 認定品 (☐M12 ☐M16 ☐M20 ☐M22 ☐M24)

☐中ボルト
M M
高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☐否
高力ボルト導入強度確認試験 ☐要 ☐否

☐アンカーボルト
SS400 M L= mm ナット (☐シングル、☐ダブル)
M M L= mm ナット (☐シングル、☐ダブル)

☐張付スタッドボルト
φ= L= mm 使用箇所 (☐柱 ☐大梁 ☐小梁)
φ= L= mm 使用箇所 (☐柱 ☐大梁 ☐小梁)

(6) 屋根、床、壁

☐ALC版 厚
☐折版 H= 厚
☐デッキプレート 型式 厚
☐キーストーンプレート 型式 厚
☐特殊デッキプレート
☐

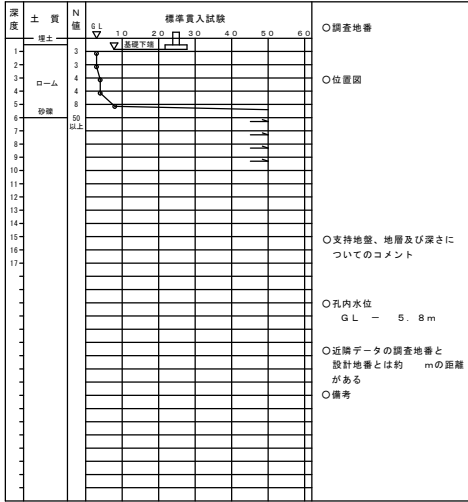
3. 地盤

(1) 地盤調査資料
☒有 ☐敷地内 ☐近隣 ☐ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐液状化判定 ☐現場透水試験 ☒土質試験

(2) 地盤調査計画
☐ボーリング調査 ☐静荷重入土試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理探査 ☒平板載荷試験 ☐試験板 (支持層の確認)

(3) 地盤調査及び試験板の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

(1) 直接基礎
☒ベタ基礎 ☐布基礎 ☒独立基礎 試験板 ☐有 ☒無
深さ 6.0-0.85m 支持層 - ローム
長期許容支持力 45 kN/m² 載荷試験 ☐有 ☒無

(2) 杭基礎 支持層

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PRC (<input type="checkbox"/> I 種 <input type="checkbox"/> II 種 <input type="checkbox"/> III 種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 増込み (セメントミルグラウト)	大原認定番号 年 月 日
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A 種 <input type="checkbox"/> B 種 <input type="checkbox"/> C 種)	<input type="checkbox"/> 打込み <input type="checkbox"/> 増込み (セメントミルグラウト)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 厚板鉄	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SK400	<input type="checkbox"/> 打込み <input type="checkbox"/> 増込み (セメントミルグラウト)	
<input type="checkbox"/> コンクリート杭	コンクリート f _c N/mm ² スラッグ セメント 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 振込杭 <input type="checkbox"/> リバースキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> B.H. <input type="checkbox"/> 振込 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書
試験杭 (☐有 ☐無) ☐打ち込み ☐載荷 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
☒コンクリートは JIS 認定工場の製品とし、施工に関しては JASS5 (1997) による。
☒耐久設計基準強度 f_d 一般 ☐標準 ☐長期
☒セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☐調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☐寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☐フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術センターの技術評価を用いた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定者の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得ること。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一材料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☐構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³を超える場合は150m³ごまたは、その増数ごとに1回を標準とする。
1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3箇の運搬路からその必要本数を採取する。
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
☐ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送機または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み機械中における打撃時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋
☐鉄筋は、JIS G3112 の規格品を標準とする。施工は JASS5 (1997) による。
☐高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定される D 種 1 号適合品とする。
☐鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重なり長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
☐D19 未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19 以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
☐ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200 箇所を超えるときには、200 箇所ごと) に 1 回行い、1 回の試験は 5 本以上とする。
外観検査 ☒有 ☐無、引張試験 ☒有 ☐無、超音波試験 ☐有 ☒無
☐柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、☐A 型 (タガ型) ☐W 型 (溶接型) ☐B 型 (スパイラル型) とする。
☐コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い案」第 4 条の試験機関で行うこと。
試験機関名 公的機関
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型枠
☐材料 合板厚 12mm/m を標準とする。 ☐施工は JASS5 による。
☐型枠存置期間

コンクリートの圧縮強度	コンクリートの圧縮強度	セメント				支 柱			
		基礎、はり、柱、壁	スラブ、はり下	スラブ		スラブ	はり下	スラブ	
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28		
5℃以下	3	5	6	10	12	25	28		
0℃未満	5	8	10	16	18	28	28		
コンクリートの圧縮強度		設計標準強度の 90%		設計標準強度の 85%		設計標準強度の 100%			

注) 1 片持ち、底、スパン 9.0m 以上のはり下は、工事監理者の指示による。
2 大ばりの支柱の震りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
3 支柱の震りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
4 震りかえ後の支柱頂部には、厚い厚板、角材または、これに代わるものを置く。
5 支柱の震りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、震りかえをしてはならない。
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☐鋼材供業者「建築鉄骨工事施工指針」
☐

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☐鉄骨工場 ☐製作委託者 ☐作工場 ☐施工計画書
☐認定または登録工場 (M グレード) ☐都登録 ☐ラング
☐材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材 ☐高力ボルト ☐特殊ボルト ☐張付スタッド
☐社内検査表 ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目
(☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
☐張付検査 ☐組立・開先検査 ☒製品検査
☐溶接検査 ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること
☐鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱い案 (建築構造設計指針第 12 章)
☒日本建築学会「溶接工作規程、同解説」J 1 J 1 M V M M X
☒日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工」

(5) 接合部の検査
☒溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
<input checked="" type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100%	30%	-	
<input checked="" type="checkbox"/>	外観 (目視) 検査	100%	100%	100%	
<input type="checkbox"/>	マクロ試験・その他	-	-	-	
第三者検査機関名		CIR 認定検査会社 (都知事登録第 号)			
第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注) 1 現場溶接については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。
注) 2 現場溶接は、超音波探傷試験を 100% 行う事。
☒高力ボルトは「JIS B 1186 の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径 2 倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であることを、ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あらかさが 50S 以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
☒高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(6) 防錆処理
☐溶融亜鉛メッキ 400g/m² とする。

☐防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K 5621、2 回塗布を標準とする。
☐現場における高力ボルト接合部及び接合部の赤錆調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し 2 回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
☐

7. 設備関係

☒特記以外の装置通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの 1/3 以下とし管の間隔を管径の 3 倍以上かつ 5cm 以上を原則とする。

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒必要に応じて記録写真を撮影保管すること。
☐